

# リンゴ園走る列車を段ボールに 津鉄ラブ箱に描いて



津軽鉄道を打ち出したブースを設置した谷口さん(左から2人目)とスタッフたち=東京・丸の内のK I T T E

ほれ込んだ津軽鉄道と自社製品を一緒にPR。東京の包装資機材会社「有功社」は東京・丸の内の「KITTE」で2、3の両日開かれている包装関連のイベント・ハコの日、津鉄を前面に打ち出したブースを出展している。輸出に対応したカラフルなリンゴ用ケースも並べ、来場者の関心を集めている。

(若松清巳)

## 東京の包装資機材会社 自社製品とともにPR

ブースにはリンゴ園を走る津鉄の写真を大きな段ボールに精細にプリントしたパネルを設置。津鉄から提供されたリンゴを収めた段ボールのケースも、写真プリントで美しくデザインされている。来場者の女性からは「リンゴ箱っぽくなくてすてき」の声が漏れた。有功社の谷口有三代表取締役(59)も同社社員も本県に特段の縁はない。「仕事や旅行で全国各地のローカル線に乗るが、津鉄ほど魅力的な路線はない。五所川原など駅舎のおもむき、車内の雰囲気、沿線の景色や人々の温かさ。もう世界遺産級の価値です」と谷口さん。これまで3度乗車した津

## ギャラリー

◆彩会展 あすまで、タッケン美術展示館3F  
同市の美術団体「彩」の作品展。今年は会場の特性を生かした表現の布絵、アクリルなど個



を出品している。高橋正雄さん(同市老人が家の前で休む姿)で描いた味のある「sky」は、よく見るとうに見える手法で描か

◆幸子のはねっと達市アスパム2階エネルギー写真展。

弘前市生まれの画家一崎玉泉在住、二科会ねぶた祭のハネトを描いた大作や水墨画、透明ハネトをあしらった陶



色和紙を使った作品などF100号の油彩「はね」科展に出品した作品でほとぼしっている。美ハネトの踊りの中に身作への糧にしているとたほど自由奔放な踊りエネルギーをもらって

◆佐藤雄司展 5日組合タッケン美術展示線美術会委員の佐藤による12年ぶり6回目の「心象と懐かし青森」に、水彩スケッチ、展示されている。地元密着型の画家は、自転車で路地裏を



鉄にほれ込み、都内で自社製品とともにPRすること多くの人に乗ってもらいたい、と今回のブースを企画した。津鉄の協力も得られ、パネルやケースの写真は津鉄の提供という。自信作のケースは、県産リンゴの輸出をにらんで国際規格で生産。強度をもたせる工夫を施し、2千箱積み上げても変形しない。津鉄ブランドのリンゴを国内外で販売するお手伝いをするのが夢。いつか実現できれば。谷口さんは熱っぽく語った。

## ホコ天にぎわい 立佞武多前夜祭

五所川原市中心街五所川原立佞武多の4日開幕を前に、祭りの運営委員会は2日、五所川原市中心街で前夜祭を開いた。通りに並んだ中型立佞武多などに明かりがともり、市民や観光客が一足早い祭りムードを楽しんだ。

立佞武多の館での開会セレモニーで、佐々木孝昌市長は「令和の新しい時代に向かっていくという思いが込められた新作の大型立佞武多に期待してほしい」とあいさつ。子どもたちと共にスイッチを押すと、歩行者天国となった通り約200mに並んだ4台の中型立佞武多や小型ねぶたなどが

